

エクストリームシリーズ 2014 那珂川大会

■那珂川大会 優勝チームコメント

KIWAMI 熊谷恒佑さん

今回の那珂川大会は、チームの都合で人数確保ができず、様々な方面へ協力をお願いした。まず参加を表明してくれたのは REAL DISCOVERY の小澤さん。世界大会にも参加する REAL DISCOVERY のメンバーで経験と実績を兼ね備えた頼もしい存在である。そして、小澤さんの紹介で大会 2 日前に急遽参加を承諾してくれた丸島さん。数々の山岳レースの完走経験やアドベンチャーレースのスタッフ経験を持つベテランである。そんな反則級の助っ人 2 名の協力を得て、KIWAMI はやっと 2014 年エクストリームシリーズのスタートラインに立つことが出来た。

レース当日の朝、丸島宅のある東京都内某所にて初顔合わせ。車内はぎこちない空気のまま那須烏山市まで。だって丸島さんとはこの日初めて会ったのだから！そして会場に到着し、受付終了直前に小澤さんと合流。もちろん、小澤さんともこの日初めての顔合わせ。

レース開始までの少しの間、小澤さんと丸島さんの会話に耳を傾けると、どうやら丸島さんは『歩ければいいですよ！』と小澤さんに口説かれ出場を決めたいらしい。自分も『地図読みに自信がありません…』と言ったところ小澤さんに「では、このレースは地図読み講習会っぽくやりましょうよ！実は僕も最近走り込んでなくて、体力がね〜。笑」と言われたのだが…。

最初は完全にレースを楽しもう、というチームが、まさか優勝チームになるとは誰が予想しただろうか…。

そしてレースが始まりチームチャレンジを経て MTB セクションへ。MTB のハンドルに括り付けた地図を、走りながら血眼になって見る自分をよそに小澤さんは「ARJS みなかみ大会参加しないのー？」「月末に御嶽で地図読み講習会あるんだけどどう？ラフティングもできるよー！」と並走する選手に営業トーク全開である。完全に我がチームは走るアドベンチャーレース広告塔と化して、ゆる〜い雰囲気 MAX である。CP2 を通過し CP3 への道中、トップ争いをしているチームが引き返したり立ち往生している。少しトリッキーな地図に足が止まるが、小澤さんの冷静な判断で確実に CP3 を通過して行く。又くところは又く。締めるとこは締める。小澤さんの変貌ぶりに圧倒されながらカヌーセクションへ。

ここでも小澤さんは他のチームにちゃちゃを入れたり、河原で待っていた息子らと水切りをしたりリラックスモード。しかし、カヌーを 2 位通過してトレッキングセクションに入ってから、小澤さんの空気に変化が感じられる。楽しむ空気から、勝ちに行く空気が変わってきているのだ。CP5 から CP7 はこれまたトリッキーなコースで、途中から地図上で自分の場所を見失い、完全に頭は真っ白。そんな中、丸島さんはさすがのベテランっぷりを発揮し、藪こぎでひるむ自分をよそに地形を正確に捉えて前進して行く。脳内の情報処理が追い付かず、激しい藪こぎに自分の心は折れる寸前だった。完全に現在地を見失ってからは 2 人の地形トークに参加するふりをしつつ、ヒーヒー言いながら、CP7 に辿り着くとどうやら我がチームが 1 位じゃないか！

ここで消えていた闘志が再点火！2 回目のチームチャレンジを終えて、さあ終盤へ出発！というとき後続のチームがやってきた。この時初めて小澤さんが『このレース勝ちに行くよ！』と気合いを注入！そこからは今までの雰囲気がガラッと変わり、お互いの役割分担を責任をもって全うするチームへと生まれ変わっていった。馬車馬の熊谷、地図読みの小澤、豊富な経験でチームの軌道修正をする丸島。まさしく三位一体となり、終盤も確実に CP を通過して行く。

そしてゴールである集落の灯りが見えた時、チームの雰囲気は最高潮に！結果として 1 位でゴール。丸島さんには初出場、初優勝のおまけ付き。そういう私もアドベンチャーレース参加 3 年目にして初優勝だ。

赤の他人同士(ましてや当日初顔合わせ！)が何かの縁でチームを組み、喜怒哀楽をともにしてゴールを目指す。最初はぎこちない感じでも、お互いの本音と本音でぶつかり合って、最後は同じ目的に向かって邁進する。

これぞアドベンチャーレースの醍醐味！と改めて感じる事が出来た大会だった。もちろん、行きのぎこちない会話とは対照的に帰りの車内での丸島さんとの会話が舌好調だったのは言うまでもなく…。

レース前日までメンバーが確定しないにも関わらず、暖かく見守ってくれたエクストレモの皆さん。安全かつ最高の大会を作り上げてくださったスタッフの皆さん。暖かいおもてなしで我々選手を迎えてくれた那須烏山市の皆さん。そしてメンバー探しに協力してくれた方々、本当にありがとうございました。

最後に急な日程にも関わらず参加を承諾してくださった、丸島さん、小澤さん本当にありがとうございました。2人の存在無くしてはこの結果は得られませんでした。またいつかこの3人でチームを組んでレースに参加できたら最高ですね！

■那珂川大会 参加チームコメント

kei'spower! 田中秀和さん

先日は、とても楽しいレース本当に有難うございました！ 岬生も今まで出たレースの中で一番難しかったけど一番達成感があり、うれしかったし、楽しかったと言っておりました。

まず、参加させて頂いた経緯ですが、普段埼玉奥武蔵の山を中心にマウンテンバイク、トレイルラン？というよりトレッキングに近いですが(笑)、山を走ったり、歩いたり、自転車乗ったりしています。また、山の中の道探しや道普請などして遊んでもおります。 そんな山で泥んこになれるレースを探して、こちらのページへとたどりつきました。

レース中は、2人して地図を読むことが出来ず、道を戻ったり、進んだり、何度も前の CP まで戻ってやり直したりと、私・子供にとっても精神的、体力的にも過酷でした。 子供にコンパスを持たせ道を進み、子供が「この山の上に CP がある」と言って登り始めた時も、「山の上に CP が無くても『心』おれんなよっ！」 が口癖になるくらい登ったり戻ったりでした(笑)

そのかわり、CP があった時の2人の喜びといったら、どんなレースに勝ったときの喜びより嬉しかったと思います。

木に、白い箱が見えた瞬間、反射板が光って見えた瞬間が忘れられません！(笑)

このレースで息子と話していたのが、戻ってもやり直せるという事、迷った時の冷静さ、それをやり遂げる体力、一緒にいる人の信頼感、許せる心、今まで気がつかなかった物がたくさんありました。

CP8のチームチャレンジは、息子がいなかったら相当時間がかかりますね～。私では…。(笑)

なにせ、不安感、疲労感、嬉しい感、達成感、信頼感を味わえた、最高のレースでした。

先日的大雪からの大会開催まで、とても大変だったのではないのでしょうか？
那珂川大会での、地元大木須の方々、エクストレモ大会関係者の方々、ボランティアスタッフの方々、我部様、本当に有難うございました。 来年も是非参加させてください。よろしくお願い致します。

kei'spower! 田中秀和 ・ 岬生